

# 指導資料

## 図画工作科・美術科 第45号

鹿児島県総合教育センター  
平成31年4月発行

対象 小学校 中学校 義務教育学校  
校種 高等学校 特別支援学校

### 表現と鑑賞の一体的指導についてⅡ －〔共通事項〕の設定と授業づくり－

指導資料第44号において、表現と鑑賞の一体的指導の大切さと、それを進めるためには〔共通事項〕の設定が肝要であることを述べた。今号では〔共通事項〕を、各題材において設定し、活用する際の留意点について、授業実践例を基に解説する。

#### 1 題材における〔共通事項〕の設定

図画工作科・美術科の〔共通事項〕には、次の二つの指導事項がある。

- ア 形や色彩などの性質や感情にもたらす効果(造形的な特徴)を理解すること。
- イ 自分のイメージをもつこと。全体のイメージや作風などで捉えること。

小・中学校・高等学校で共通して設定されている造形的な視点を豊かにするための「知識」が、ア「造形的な特徴の理解」である。このアを次のように二つに分けて考えることで、題材における〔共通事項〕を設定しやすくなる。

ア-1 普遍的な〔共通事項〕

ア-2 題材固有の〔共通事項〕

#### (1) ア-1 普遍的な〔共通事項〕

これは、「色」、「形」、「材質」、「光」といった造形の要素そのものに関わる〔共通事項〕である。主題を達成するためには、「この色でいいのか。この形でいいのか。この材料でいいのか。」といった視点は、教科全体を通して取り扱う普遍的な〔共通事項〕の視点であり、授業において常に意識すべき基本的な内容である。

#### (2) ア-2 題材固有の〔共通事項〕

これは、題材が内包している内容に伴って設定する〔共通事項〕である。学習指導要領解説に例示されている〔共通事項〕(図1)や、児童生徒の実態を考慮して設定していくことが大切である。

	ア 造形的な特徴を理解すること	イ イメージをもつこと
小学校 低学年	形、線、色、触った感じ、大きさなど	偶然見付けた形や色からイメージをもつこと。 自分の感情や行為とともに、自分自身と一体となったイメージをもつこと。
小学校 中学年	形の感じ、色の感じ、それらの組合せによる感じ、色の明るさ、前後の感じ、質感など	形や色の感じ、自分の思いや経験など、様々な手がかりを基にイメージをもつこと。
小学校 高学年	動き、奥行き、バランス、色の鮮やかさ、方向感、材質感、時間的な変化、量感、場所や空間の特徴など	外観から立体の構造や空間を把握したり、心に描いた情景や像などから形や色を考えたりするなど、中学年よりも具体的な特徴に即してイメージをもつこと。
中学校	形や色彩、材料、光などの造形の要素、性質、感情にもたらす効果、色彩の色味・明るさ・鮮やかさ、材料の性質や質感、組合せによる構成の美しさ、余白や空間の効果、立体感や遠近感、量感や動感など、また、それらが感情にもたらす効果	対象の全体に注目し、造形的な特徴を基に… 見立てたり、心情などと関連付けたりして全体のイメージで捉えることを理解すること。 作風や様式などの文化的な視点で捉えることを理解すること。

※ 小・中・高等学校学習指導要領解説【図画工作・美術・芸術(美術)編】を基に作成  
※ …知識、…思考力、判断力、表現力等  
※ 高等学校においては、中学校の〔共通事項〕の内容を考慮して設定する

図1 〔共通事項〕例

中学校美術科・高等学校芸術(美術)では、アの「造形的な特徴」などを基にイ「全体のイメージや作風などで対象を捉えること」も知識としている。中学校・高等学校の題材においては、生徒の実態を基に、題材においてどのようなイメージや作風を視点としていくのかを考慮することが大切である。

## 2 授業の実際

### (1) 第2学年「ざいりょうからひらめき」

(絵に表す活動：全4時間)

#### ア [共通事項] の設定

第2学年では、普遍的な[共通事項]に気付くことを大切にするので、造形の要素を授業の中で繰り返し扱う(ア-1)。特に本題材では、様々な材料からの発想を大切にするので、「材質(材料の感じ)」と、その材料を用いたことにより、表現のイメージが広がることが重要である(ア-2、イ)。このことから、本題材の[共通事項]は次のようになる。

○ 材料から、「色」、「形」、「材質」といった

#### ウ 題材の流れ

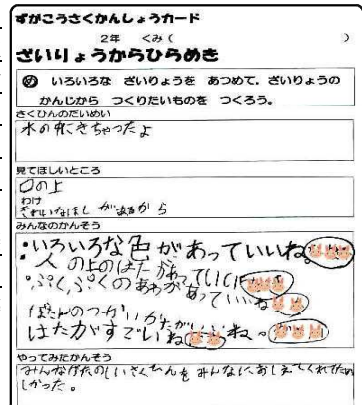
場面	活動内容	指導上の留意点…○、児童の様子…◎ 下線…[共通事項]に関わる内容
思いをもつ・見通す	<p>1 様々な材料を使って表現した参考作品と出合い、身の回りにあるものを組み合わせて、楽しく絵に表すことを知る。 ○ 児童から出された感想を、<u>[共通事項]</u>を用いて分類した。</p> <p>2 色や形、質感に特徴のある材料を中心に、絵に表すために使えそうかどうかを考えながら、身の回りの様々な材料を集める。</p>	<p>○ <u>様々な材料の質感を生かして作成した参考作品を準備した。</u></p> <p>○ 参考作品の鑑賞で、「<u>形や色、手触りなど</u>」の感じの異なる様々な材料を使うことに気付かせた。</p> <p>○ 「<u>色</u>」、「<u>形</u>」、「<u>材料の感じ</u>」については、意識して言葉にするようにした。</p> <p>○ 様々な材料を教師が準備し提示することで、自宅で準備できそうなもののイメージを広げさせるようにした。</p> <p>◎ <u>身の回りにあるものの「形や色、手触り」を意識して見つめ、作品の材料として様々な材料を集めてくることができた。</u></p>
表す	<p>3 集めた材料に触れ、材料の質感を味わいながら、自分の作品に使いたい材料を選ぶ。</p> <p>4 材料を並べたり、組み合わせたりしながら自分なりのイメージを広げ、絵に表す。 ○ 表しながら主題をもてるようにした。</p>	<p>◎ 「<u>ふわふわした感じだね。</u>」、「<u>キラキラ光っているみたい。</u>」、「<u>丸くて転がりそうだね。</u>」、「<u>柔らかい感じだね。</u>」などの材料の特徴や感じを言葉にできていた。</p> <p>◎ <u>材料の特徴や感じからイメージを広げたり、イメージに合うような材料を選んだりすることができた。</u></p> <p>◎ 友人の作品を鑑賞する<u>中間鑑賞</u>の中で、<u>材料のよさや、材料からの発想、材料の生かし方などに気付くことができた。</u></p> <p>○ 中間鑑賞では、友達の途中の作品や活動のよいところについて「<u>色</u>」、「<u>形</u>」、「<u>材料の感じ</u>」によって話せるように声を掛けた。</p>
味わう	<p>5 自分の作品を紹介するため、作品の見所などを言葉で表現する。</p> <p>6 作品を紹介し合い、互いの表現のよさをそれぞれの視点から多面的に味わう。</p> <p>7 活動を振り返り、自他のよさを実感し、次の題材への意欲をもつ。</p>	<p>◎ <u>鑑賞カードには、作者の思い・願い(主題)と、それを表現するために工夫したところ(見所)について[共通事項]を基に記入させた。</u></p> <p>また、鑑賞する際は、<u>[共通事項]</u>を意識して鑑賞させ、感想を書かせることができた。</p>

造形の要素の感じに気付くことができる。

○ 造形の要素を視点として思考し、広がったイメージを言葉で表現することができる。

#### イ 指導に当たって

多様な材料を準備し、児童が表現する中でも、使用した材料の「形」や「色」、「手触り」について問い掛け常に意識できるようにする。また、途中の作品や出来上がった作品を鑑賞する際は、[共通事項]を視点にして、自分の思いを言葉にできるように声を掛けるようにする。



エ 実践の成果（アンケートから）

本学級では、本題材の後も、〔共通事項〕を意識した授業を継続して実践した。同じアンケートを実践前と実践後に行ったところ、下のような結果が見られた。実践後に行ったアンケートでは、自分が感じた根拠について

「どうしてかという」と…の書き出しで、「色」、「形」、「材料の感じ」を視点として分析し、自分の考えを述べている。継続して〔共通事項〕を意識させたことにより、実感を伴って〔共通事項〕に気付き、視点として用いることができるようになったと考える。

**ずがこうさくアンケート**  
2年 くみく **実践前**

下のさくひんの、おもしろいところを見つけてね。

さくひん①



ぬので木をイメージしているのがおもしろいです。

さくひん②



土のうチンアソウの花をみどりてしているのがいいです。カキグミとカキグミでかくしているところか。

さくひん③



土でしがすこいでお



**ずがこうさくアンケート**  
2年 くみく **実践後**

下のさくひんの、おもしろいところを見つけてね。

さくひん①



木がすこいとおもしろい。かきくみとカキグミ。うたから空かんぐら。いとおもしろいとおもしろい。

さくひん②



トースとモミをつかして、いけてるからおツグみかきくみとおもしろいとおもしろいとおもしろい。

さくひん③



うさきかかわいとおもしろいとおもしろいとおもしろいとおもしろいとおもしろい。

自分の思いを、〔共通事項〕を視点にして見つけ、分析したり、イメージを膨らませたりして、「どうしてかという」との書き出しで、具体的に言葉にして表現している。

(2) 第6学年「いっしゅんの形から」

(立体に表す活動：全6時間)

ア 〔共通事項〕の設定

第6学年の児童は、第5学年までの学習により、多くの〔共通事項〕を理解してきている。そこで、普遍的な〔共通事項〕に加えて、新たに本題材の特色である「場所や空間を生かす」ことを題材固有の〔共通事項〕として設定する。このことから、本題材の〔共通事項〕は次のようになる。

- 「形」、「色」、「材質」に加えて「場所や空間」という造形的な特徴について理解する

ウ 題材の流れ

場面	活動内容	指導上の留意点…○、児童の様子…◎ 下線…〔共通事項〕に関わる内容
思いをもつ・見通す	1 布を液体粘土で固めた参考作品との出会いを通して、固まった形を生かして、自分の世界をつくることを知る。	◎ 参考作品の形からイメージされるもの、イメージされる色などについて語り合い、液体粘土への期待を高めた。 ○ 「この形を『どんな場所』に置いたら面白いだろうか。」と問い掛け、校内の様々な場所に置くことで、異なるイメージになりそうだという期待感をもたせた。
	2 液体粘土づくりに取り組みながら、液体粘土の材質感を知る。	◎ 液体粘土の手触り・性質を確認しながら、液体粘土づくりに取り組めた。



ことができる。

- 「場所や空間」と「作品」を組み合わせることにより、豊かな発想(イメージ)を広げることができる。

イ 指導に当たって

作品を展示する「場所や空間」にこだわらせ、場所や空間と作品のイメージを広げられるようにする。また、鑑賞の際は、なぜその場所や空間を展示場所に選んだのか〔共通事項〕を基に考えさせたり、そこでの形の見え方について語り合わせたりすることで、作者の思いに共感し、楽しむことができるようにする。



<p>表 す</p>	<p>3 布を液体粘土に浸し、ペットボトルや角材などの土台となるものにかぶせたり、教室に張ったロープにつるしたりして固めて形づくる。</p> <p>4 固まった形をいろいろな角度から見て、様々なものに見立て、自分のイメージを表現するために色をつけ足したり、置き方を考えたりする。</p> <p>5 自分のつくり出した形を、自分のもったイメージに合った場所(空間)に置き、その場所(空間)も作品の一部として写真を撮る。</p> 	<p>◎ 友達との交流を通して、自分の形について試行錯誤を繰り返しながら、<u>納得する形を生み出そう</u>としていた。</p> <p>◎ <u>自分がつくり出した形や色と、場所や空間との関わりが豊かな発想(イメージ)につながることに気付くことができた。</u></p> <p>○ <u>なぜその場所なのかを〔共通事項〕を視点に考えさせた。</u></p>  <p>恐竜(NQ)～足跡～      多くの作品は、広い大空の空間をイメージしました。ある日、恐竜が通った足跡が発見された。うかうかうするため、金貨を使って足が二枚あるおにしました。</p>
<p>味 わ う</p>	<p>6 自分が撮った写真を基に、そこに表現できた世界(空間)の面白さを味わい、自分がイメージした世界を言葉で表現する。(紹介文を書く。)</p> <p>7 つくり出した世界を紹介し合い、それぞれの表現のよさを味わう。</p> <p>8 活動を振り返り、自他のよさを実感し、次の題材への意欲をもつ。</p>	<p>○ <u>自分が生み出した世界に物語が見えたら、その物語を書くことも勧めた。</u></p> <p>○ <u>鑑賞の視点として、作品と、作品を置いた場所や空間について、「形の見え方(面白さ)」と「作品を置いた場所の特徴(よさ)」の2点を視点として鑑賞させた。</u></p> <p>◎ <u>友人の作品が場所によって新たな見え方になることや、世界観、物語性についても意見を交流することができていた。</u></p>

### エ 実践の成果

- 常に〔共通事項〕である「場所や空間」について意識させ、表現と鑑賞を一体的に繰り返し、積極的に話し合う授業展開を行うことで、児童同士が相互に関わり合いながら新たな表現方法を見い出そうとする姿が見られた。
- 自分の作品を置くという行為によって作品を完成させることを通して、「場所や空間」という造形的な特徴について、実感を伴って考えさせることができた。
- 自分の作品を説明する際には、場所や空間と作品を「どのように関係付けたのか。そこからどのようなイメージが広がったのか。」について説明することができた。また、質問や感想でも場所や空間と作品との関係性からの発言が多く出された。

### 3 まとめ

第2学年の授業実践【2-(1)】において児童は、自他の作品について〔共通事項〕を視点として繰り返し思考することで、自然と普遍的な〔共通事項〕を視点として使えるよう

になっている。この状況が、「造形的な視点」を獲得した状況になる。1回の授業、一つの題材だけでの取扱いではなく、年間を通して繰り返し取り扱うことが重要である。

第6学年の題材【2-(2)】では、〔共通事項〕を設定する際に、「形」、「色」、「材質」、「光」といった普遍的な〔共通事項〕に加え、題材固有の〔共通事項〕を意識したことにより、指導が焦点化され、授業展開を行いやすくなり、児童の活動も充実した。

このように全ての授業において、授業者が、〔共通事項〕を意識して声掛けし、試行錯誤の中で、児童生徒の深い思考を促したり、児童生徒がどのように思考しているのかを〔共通事項〕を視点にして読み取り、助言したりするなど、題材における〔共通事項〕の設定と活用が、授業づくりの重要なポイントとなるのである。

#### －引用・参考文献－

- 文部科学省『小・中学校学習指導要領解説図画工作編・美術編』平成29年
- フリップ・ケルヴィン著『学力をのばす美術鑑賞V.T.S.』平成27年 淡交社

(教職研修課 福森 真一)